

学校アクションプラン

令和7年度 富山いずみ高等学校アクションプラン - 1 -

重点項目	1 学習活動	
重点課題	家庭学習習慣の確立と思考、協働、実行のサイクルの定着	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・総合学科では生徒の進路目標が多様であり、選択した科目に応じた家庭学習の量や必要な学力が様々であることから、教科ごとに成績にばらつきが見られる。 ・進路や学習に対する目標が明確でない生徒は学習へ向かう姿勢が受動的になる等、学習意欲にも影響を与えている場合がある。 ・自ら考えて学習や行動につなげる態度・姿勢に欠ける。 	
達成目標	① 家庭学習の振り返りアンケートにおいて ・計画を立てて学習している ・課題やそれ以外の学習に取り組んでいる ・テストの見直しを行いその後の学習改善につなげている の各項目のポイント（10点満点）	② 12月実施の（2回目）アンケート （いずみグラデュエーションポリシー） 「思考力」「協働力」「実行力」のスコア （満点5）※1回目との比較での差
	3つの項目の平均点 5.5点以上／10点満点	「思考力」「協働力」「実行力」（全校平均）がそれぞれ0.4ポイント以上上昇する。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・担任等による面接指導を充実する。 ・小テストや課題の提示を、評価の場面や方法を工夫しながら計画的に実施し、学力の伸長や定着を図る。 ・小テストや考査の見直しを促し、学習効果を上げるために自分の生活リズムや学習方法、学習時間について生徒自ら考えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合学科～1学年「産業社会と人間」と2学年「総合的な探究の時間」を通じて様々な立場の人々と協働しながら思考しながら課題に取り組む主体性や態度を育てる。 ・看護科～主に3学年「臨地実習」（病院・保育所・特養老人ホーム）を通じて病院や施設の方々や地域の方々、または学校内の人々と協働しながら、臨床看護を行うための資質・能力を育て、思考しながら現場の課題に取り組む主体性や態度を育てる。
達成度	1学期（全学年） 6.3点 2学期（全学年） 6.6点	高校「思考力」-0.2「協働力」-0.2「実行力」-0.3 専攻科 思考力+0.2 協働力+0.3 実行力+0.3
具体的な取組状況	<p>① 生徒が学習目標や計画を立ててそれを達成できるように、各学年で取り組みを行った。</p> <p>(1年) 一人一台購入したタブレットやデイリーワーク等で学習習慣の定着を図り、定期考査や模試後の見直しを重点的に行った。今年度はクラッシーを積極的に活用し、教科の課題に取り組みせ、学習時間の確保や日々の学習の振り返りを充実して行うことができた。</p> <p>(2年) デイリーワークの提示を行い計画的に課題に取り組むように指導した。授業の進度表を配布し、小テストの実施を明確化して、自主的に取り組めるように工夫した。科目によっては個人の理解度に合わせて課題の量を指定し意欲的に取り組めるように働きかけた。また、定期考査に自主的に取り組めるような方策にも力を入れた。進路講演会を実施して志望校や学部について調べたり、興味のある学科の講座を聴講する機会を設けたりして、学部・学科を決定する支援をおこなった。</p> <p>(3年) 朝学習時に社説要約などの活動を積み重ね、基礎学力や基礎知識の向上を図った。また、デイリーワークや学習進度表の提示によって、計画的な学習の確立につなげた。放課後には希望者補習を実施して学力向上を目指す生徒への対策を行った。</p> <p>② ・総合学科「産業社会と人間」～コミュニケーション能力の向上を期して各活動に取り組んだ。「総合的な探究の時間」～立場の異なる他者と協働し各種課題の発見考察提案発表に取り組んだ。</p> <p>・看護科～主に3学年「臨地実習」（病院・保育所・特養老人ホーム）を通じて病院や施設の方々や地域の方々、または学校内の人々と協働しながら、臨床看護を行うための資質・能力、現場の課題に取り組む主体性や態度を育てた。</p>	
評 価	① A	・達成目標項目である「計画を立てて学習することができた」の数値が5.9点と他の項目に比べてやや低い、一学期5.7点から二学期6.1点と向上が見られた項目でもある。また、達成目標項目と一緒にいった項目「学校の課題をきちんと提出することができた」数値が8点以上と高い。計画を立てて日々課題に取り組む学習習慣が学力向上につながると考え、今後も指導を続ける必要がある。
	② C	1年生が一学期から二学期かけて大きく低下したことが一番の原因である。要因としては、本アンケートが自己評価であることから、高校の学習や部活動など本格化した二学期を通して自己内基準が厳しくなったことが考えられる。実際2年生3年生専攻科はわずかではあるがすべて上昇している。重点課題である「思考、協働、実行のサイクルの定着」とまでは至っていないが、産社・総探・臨地実習での外部連携が大きな影響を与えていることは確かであり、そうした学習サイクルを定着させていく必要がある。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・失敗を恐れる生徒たちが増えている中で自主性を重んじる様子を伺い知ることができた。 ・それぞれの日常に疑問を抱かせ目標を持たせることが自主性を育むことにつながる。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・進路目標の早期の構築と適性に合った科目選択のための支援 ・タブレット学習が進む一方で書く体験が減少している現状を踏まえた学習スタイルの提案 ・個々の回答の判断のあいまいさを是正するため、6つの力の評価基準を生徒の意見を踏まえて作成し明示する。 	

(評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: 現状維持 D: 現状より悪くなった)

重点項目	2 学校生活	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団生活におけるルールやマナーについて考え、自律できる力の育成 ・ 交通安全や防犯に関する意識の向上 ・ 安全・安心で快適な学校生活を送るために、生徒自身が主体的に校内の環境美化に努めようとする意識と行動力を育てる。 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ スマートフォンの校内での使用ルールやマナーを守らない生徒や長時間使用し、学習や睡眠など生活に支障を来す生徒が一部存在する。また、少人数ではあるが安易に SNS に個人情報を掲載し、ネットパトロールから指摘をうけたり、外部より苦情がきたりトラブルに巻き込まれる生徒もいる。 ・ 昨年度の自転車乗車中における交通事故は10件発生している。 ・ 「スマホを使用しながら」や「イヤホンを装着しながら」登下校する生徒も一部に見られる。 ・ 授業終了後の15分間が「清掃」時間であるが、いくつかの区域で「集合が遅い」「手早く掃除できない」「時間内に終わるが、しっかり掃除されていない」などの問題がある。今年度も工事のため、清掃分担区域については広範囲である上、年度途中で大幅な変更が予定されている。 	
達成目標	①交通安全とスマートフォン使用に関するアンケート回答で「ルールが意識できている」生徒の割合	②『「清掃」に主体的に取り組み、時間内にきれいにすることができた』生徒の割合。
	90%以上 (1月実施「マナー・規範意識」アンケート)	80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 規律委員会主体による活動を充実させ、学校生活や諸活動に対する生徒の意欲を喚起し、規範意識を育む。 ・ 生徒会と規律委員会を中心に作成した「富山いずみ高校ネットルール」の全校生徒への周知を行い、正しいネットの使用方法について考えさせる。 ・ 規律委員会(サイクルリーダー)による自転車の鍵かけ・ルール改正の周知を呼びかけ、防犯意識涵養を図る。また、ヘルメットの着用についても呼びかける。 ・ 外部機関と連携し、安全教育に関する講演会を企画する。 ・ 生徒自身が学校生活の在り方について考え、自分たちの課題について主体的に取り組む態度を育てる。 	
達成度	86.2%	「授業終了時刻から15分以内に掃除を完了することができた」 83.5% 「『校時表』通りの授業終了時刻から3分以内に当番全員が集合できた」 61.6%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ より良い校風づくりを目指し、規律委員会が今年度の目標を設定し全校生徒に働きかけた。 ・ 規律委員会を中心として、以下の活動を行った。「朝の活動」…規律委員と教職員が生徒玄関前や通学路で挨拶運動や横断支援を行った。警察の方と一緒に自転車の鍵かけと駐輪マナー、ヘルメットの着用も呼びかけた。「さわやか運動」…PTA・教職員と共に3日間にわたり運動を展開した。学校スローガンに基づき規律委員会がポスターを制作した。 ・ 1, 2年生の統一HRで、道路交通法改正についての理解を深め来年度の施行へ向けて規範意識を高めた。 ・ 外部講師を招き、安全教育講演会を実施した。 	
評 価	① B	アンケートの結果からすべての項目の平均とすると86.2%と目標を下回った。数値が上がったものは学校の規則やマナーへの規範意識で95%を超えているが、スカートの長さや染髪に関する項目は60%を切る項目がある。ルールは守りたいが自分の見え方について少し優先する傾向にあるような結果となった。平均は下回ったものの規範意識は高まったと判断しBとした。
	② B	清掃指導者の協力もあり、「授業終了時刻から15分以内に掃除を完了することができた」割合は83.5%で、「クリーン調査隊」の評価でも概ねきれいに清掃できていたことがわかる。ただ、「『校時表』通りの授業終了時刻から3分以内に当番全員が集合できた」割合は61.6%にとどまった。これは、「工事のための通行制限がある」、「最終授業が時間通りに終わらないことがある」ことなども原因であるが、今回も前年同様「B」とした。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自転車や清掃など、アンケート結果を踏まえて生徒たちと教員が共に取り組んでいる様子が伝わってきた。 ・ 生徒自身の意識を高める教員というのは、子どもを信じることから始めている。勤務先の保育所でも子供たちを褒めることを重視している。各指導ではその取り組みが必要な理由を考えさせ認識を深めさせるべきである。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ ルールに則ったスマートフォンの使用ができるよう継続して指導に取り組む。 ・ 県下では高校生が未施錠で自転車の盗難に遭うことが多く本校でも施錠する習慣を身につけさせる。 ・ 清掃記録用紙の生徒のコメントに「清掃強化週間が終わっても、この時のような集合・解散を心がけていきたい」という内容が複数見られ、啓蒙活動としては有効であった。次年度も継続して取り組みたい。 	

(評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: 現状維持 D: 現状より悪くなった)

重点項目	③進路支援	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・面接指導の充実 ・3年生への進路支援の充実 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの将来の人生をどのように設計し、社会とどうつながっていくかについての意識が希薄であるため、進路や学習に対する目標が明確でない生徒が多い。 ・学習態度はまじめだが、家庭学習が習慣化していないために基礎学力が不足しており、学習に困難を感じている生徒が見られる。 ・3年総合学科では、1, 2年生の指導をふまえて、個々の進路実現に向けた支援として、推薦選抜等における小論文や面接指導など志望先に応じた指導を充実させることが求められている。 ・大学入試制度改革への対応として、1年「産業社会と人間」、2年・3年「総合的な探究の時間」などを利用して、生徒が自分の考えをまとめて「話す・書く」などの、表現力を深化するための取り組みが始められている。 	
達成目標	① 面接指導の充実 ・面接を通して「自己理解が深まり主体的に進路を考えるために役立った」と回答する生徒	② 3年生への進路支援満足度 ・3年間の進路支援のための取り組みに対して「満足した」と回答する生徒
	80%以上	平均60%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査、学習時間調査、進路学習の振り返り、学習の記録等を有機的に結びつけ、面接指導に活かす。 ・面接週間期間は生徒面談を優先するため、校時・行事について配慮する。 ・教科担当者との面談も必要に応じ設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般選抜を含め、小論文指導、面接指導など、志望進路に応じた指導体制の充実を図る。 ・過去問や受験報告書等の蓄積データをデータベース化し活用できるようにする。 ・生徒の進路志望と外部模試の結果分析を行い、授業改善や進路指導に活かす。
達成度	86.9% (1学年86.0%、2学年87.6%)	「満足」60.3%、「ある程度満足」39.7%(計100%)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期、2学期は、学期はじめに2週間程度の面接期間を設け、そのうちの1週間は短縮授業を実施し、面接時間の確保に全校的に取り組んだ。年間を通して、科目選択や進路希望に関わることなど、各学年とも3回以上の個別面談を実施している。 ・面談を通して進路や学習に対する目標を明確にすることを促した。面談の結果は学習支援ツールに記録し1年次、2年次、3年次に担任が代わっても情報共有して生徒理解が促されるようにする。 ・担任、副担任の2人体制で面談に臨み、複数でクラスの生徒を支える体制にしている。(クラスの生徒の人数を半分程度に分けて、1対1で行う。) ・各学期の初めの学習時間や生活実態、学習に向かう姿勢等の調査はスタディサポートや、看護科は調査記入方式で実施した。学習への取り組み状況を把握することで、面談資料としても活用できた。 ・学校推薦型総合型選抜受験者に対する個別指導を全校体制で行う。志望理由書の指導を面接指導担当者に依頼し担任の負担軽減に努めた。 	
評 価	① A	面接が「おおいに役立った」と答えた生徒の割合は全体19.8%(1学年15.2%、2学年24.3%)で、昨年度(全体22.9%、1学年21.7%、2学年24.2%)に比べ減少した。1学年で大きく減少しており、その原因を探ると共に、生徒の進路希望に応じたきめ細かな指導を続けていきたい。
	② A	「満足」が60.3%となり、目標を達成した。昨年の「満足」63.5%から減少しているが、進路ガイダンスや講演会、面接指導等を通じた本校での様々な支援について、ほとんどの生徒の満足度が高かったことが評価できる。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・面談、小テストの取り組みなどの達成感が積み重なって次のステップに向かうきっかけになっている。 ・進路指導の要は実践的な見学・体験学習であり、社会生活に通用する素養を身に付けさせてほしい。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も多様な進路希望や入試方式に対応できるような指導体制を整え、生徒個々の強みを活かす指導を全校体制で行うことを継続する。 ・主体的な自分探しに向かう動機づけを常に行う必要がある。そのためには学年や探究活動などの諸活動と連携することや、確かな学力のもとでの進路実現に向けた取り組みが一層重要になる。 ・学習支援ツールの活用によって、生徒が自分に合った課題を主体的に行えるようにする。 	

(評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: 現状維持 D: 現状より悪くなった)

重点項目	4 特別活動		
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会執行部を中心とし、生徒全員による主体的な学校行事の取り組みを支援 ・I G P を浸透させ、各部活動やホームルーム、委員会活動に協働的に取り組む態度の育成 ・朝読書の在り方及び始業前の時間の使い方について学校全体で考えていく必要がある。 		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校行事に対する充実感が高い一方、参加意識や関わり方が薄い生徒も見られる。生徒一人一人が主役であることを意識させるとともに、全員が企画運営に携わることで充実感の質を向上させたい。 ・部活動やホームルーム活動、委員会活動では、決められた役割を確実にやり遂げる生徒は多いが、グループ全体の目標や役割に対して協力して取り組もうという態度に物足りなさを感じる。目標達成や諸問題の解決のために仲間や教師と協働して取り組もうとする態度を育成したい。 ・2学年では例年通り実施。1学年は今年度の新入生から学校で使用するタブレットが個人所有となり、学習補助機材としてのタブレット操作の校内に於ける使用方法などを教える時間として朝の時間を使い、結果として朝読書は定着していないのが現状である。 		
達成目標	①各学校行事への取り組みに対する充実感、達成感	②I G P を意識したHR活動を取り組みことができたか。	③朝読書、朝読書以外も含めて、充実した読書ができたとする生徒の割合
	90%以上	80%	50%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・事前アンケートを実施し、生徒の意見や要望を取り入れることで、参加意識を高める。 ・生徒議会や生徒総会等を活用して各行事の内容を生徒に周知するとともに、広く意見を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスの目標をI G P 「傾聴力・創造力・思考力・発信力・協働力・実行力」の中から選ぶことに限定し、1年間取り組むようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いた雰囲気の中で一日をスタートし、朝読書の時間は集中して読書に取り組むようにする。 ・HRを使った読書の時間などを通して、皆で本を読み感想や面白さを伝え合い、読書に触れ合う機会を作る。
達成度	98.7%	96.7%	64.5%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校行事では、校舎の改修工事で場所の設定が難しい中、生徒会執行部を中心として生徒の意見を反映させながら企画・運営に取り組みさせた。特に文化展では場所や時間のない中、各クラス指向を凝らした内容となっていた。当日は大変な盛り上がりを見せ、生徒自身の達成感や充実感が得られた。 ② 1年間学期ごとに「育てたい力」の目標を掲げてもらった。担任にはホームルーム活動でその目標を周知し、生徒とともにHR計画作成に取り組んだ。「育てたい力」の実現に向けた内容を取り入れ、学級運営の向上を目指した。 ③ 毎朝の声かけ指導や統一HR「読書の時間」などを通して、積極的に読書に取り組むとともに、自分が読んだ本に対する感想を文章化してクラスの仲間と共有することで、本を読む楽しさを発見できる機会を増やすよう努めた。 		
評 価	① A	今年度は3年に1度の文化展があり、生徒会や各クラスにおいて多くの企画を考え実行した。時間や場所の余裕がない中で、生徒会・組長が中心となり試行錯誤しながら充実させていた。アンケート結果にも「準備を通してクラスの仲が深まり、いろんなクラスの出し物を体験することで他学年との交流も経験でき、とても楽しかった」「たくさんの人と協力して全力で楽しむことができ、とてもいい思い出になった」などがあり、準備の段階からより良いものをつくろうと積極的に取り組む姿勢が見られた。	
	② B	各クラスで「育てたい力」を目標に掲げ、計画をスタートした。今年度は、3年に1度の文化展があったため、クラスならではの取り組みが行われた。アンケートには「I G P の達成のために、役員を中心としてクラス全員で活動できた」「行事に対しても一人ひとりが動き協力しあって、協働力を高めていた」などがあり、目標達成のために積極的に取り組む姿勢が見られた。また、「思考力を育てる活動を考えることがとても大変だった」などの意見からは、目標に向けた内容を模索し行っていたことが分かった。しかし、行事以外でのHR活動ではレクリエーション的なものが多く、違った形でHR活動が行われるようリーダー研修会などを使い、事前に指導する必要があると感じた。	
	③ B	数値は2学年だけのものである。タブレットを使った読書履歴調査の入力が徹底したものにならずある程度のデータが抜け落ちているのではないかとと思われる。	
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートを取り生徒と共に取り組んでいる様子が伝わってきた。朝読は短時間でも継続してほしい。 ・通信機器が発達する中で即時対応が多いからこそ、人としての余裕を持てるよう育ててほしい。 		
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ① 様々な行事の中で、生徒を中心とした企画・運営ができるよう働きかける。 ② 「育てたい力」を向上できるHR活動ができるよう事前指導を充実させる。 ③ 長年本校で実施されてきた朝読書だが、教育環境が変化する中で、各学年の意向などを聞きながら来年度以降どのように取り組んでいくかを検討する必要がある。 		

(評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: 現状維持 D: 現状より悪くなった)

重点項目	その他（看護科教育の充実）	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師国家試験合格及び進路実現を目指した学習及び進路指導の充実 ・専門教科への興味・関心の向上及び職業観・社会人基礎力の育成 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・学年によってはクラス内で学力の二極化が見られ、生徒に合わせた学習指導が難しい。 ・看護師養成校として看護師国家試験合格は必須であり、合格率100%を目指している。 ・卒業後就職以外に保健師・助産師・養護教諭養成機関への進学や大学編入希望者がいる。 ・看護職者として社会人基礎力及び倫理観の育成が求められている。 	
達成目標	① 進路実現 看護師国家試験合格率・進路達成度	② 看護科意識調査での満足度 専攻科修了生への「看護科で学んで良かったか」「学習面・進路面」の問いに「満足した・概ね満足した」と回答した生徒
	100%	80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験対策として、教員セミナーに参加し、114回国試問題の分析による指導方法の工夫を図る。 ・外部模試や実力テストの事後指導と共に早期に必修問題に取り組み強化していく。 ・「解剖生理」「病理」の基礎的知識定着に向け、授業改善、評価方法の検討を継続していく。 ・高校1年次から継続的な学習習慣を確立し、学習時間の増加と生徒の習熟度に合わせた指導法を工夫すると共に、成績下位者への個別指導を行う。 ・年々早まる就職試験に向け、進路懇談会や就職試験対策講座の開催時期を早めるとともに、専攻科1年からインターンシップ等の情報提供を行い、進路希望に合わせた面接・小論文指導を計画的に行う。 ・大学編入者、保健師・助産師への進学希望者の実態把握、校内での指導体制の強化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入学時より看護職者としての自覚及び社会人基礎力、倫理観の育成や看護教科に対する興味・関心を高める教科指導法や看護科行事をIGPを踏まえて実施する。 ・意識及び進路調査を分析し、生徒が抱える問題や悩みを把握し面接等の充実を図る。 ・シミュレーション教育を取り入れた演習の充実を図り、演習で身に付けた技術を臨地実習で活用できるように、生徒の学びや気づきを引き出す関わりをしていく。 ・合同HR及び自治会交流会などでのピアサポート活用による異学年間交流を充実させる。 ・臨地実習での振り返りを確実にを行い、達成感とともに自己の課題を明確にし、課題解決能力に繋げる。また、自己効力感や発信力を高める指導をしていく。
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師国家試験：試験2/15、発表3/24 ・進路100%：就職（30/30名）内定、進学（5/5名） 	<ul style="list-style-type: none"> ・意識調査による生徒満足度～「看護科で学んでよかった」：96.9%「学習指導」：90.8%「進路指導」96.9%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・高校では、校内外実習記録から、生徒の理解度や主体的に取り組む態度・学習意欲を測り、個別の学習状況に応じたコメントの記載や声かけを実施することで、よりきめ細やかな指導やフィードバックにつながった。 ・高校では保護者会や保護者説明会を通して、看護科や進路に関する説明を行うなど、情報提供を行い、生徒と保護者が進路実現に向けて取り組めるようにした。 ・国家試験対策として、研修会に参加し出題傾向の分析に基づく授業を行い、生徒の学習指導に活かした。また専2は、臨地実習終了後より朝夕を実施し、知識の定着を図った。外部模試や定期考査の結果から、学力不足の生徒には課題学習を提示し、個別指導を行った。 ・就職試験が早まっているため、専1の夏季休業中に病院見学・インターンシップ参加を勧め、早期の進路決定に繋がった。また、マナビ就職対策講座を12月、3月と2回実施しより具体的な指導を行った ・今年度は専攻科では進路懇談会を6月から5月の実施とし、進学懇談会を8月から3月に変更し、早めに対策をした。専2全員に担当教諭を割り振りし、個別の就職・進学指導を行い確実な進路実現に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護教育振興会講演会で講師の看護への思いを聴くことで、看護へのモチベーションの向上と看護観育成に繋がった。 ・看護科行事、合同HR、合同実習及び自治会交流会などのピアサポート活用による異学年間交流がコロナ禍以前のように行ったことで、生徒が目標達成に向けて、学習意欲維持向上や自己の到達目標を明確にすることができ、学びへのモチベーション向上の相乗効果があった。また、専攻科では、他校との学習交流会や学生交流会、富山マラソン救護ボランティアに参加することで、学習意欲の向上が図れた。 ・教員間の情報共有を密にし、問題を抱える生徒において、面談を適宜行い、保護者とも連携を取り早期対応を図った。 ・シミュレーション教材やタブレット学習を積極的に実施し、より現実的な実習に近づけることで具体的なイメージを持てるよう工夫した。 ・臨地実習の振り返りをグループ間で行うことで学びの共有や成長を実感し看護のモチベーションが向上した。 ・専攻科1年の臨地実習後の事例発表会を従来とは異なる形式にした。専攻科1年と高校3年の生徒で1つのグループを作りカンファレンス形式にしたことで生徒が能動的に参加し学びが深まった。
評 価	① 未定	就職全員内定、進学者全員合格。看護師国家試験は2/15に実施、結果は3/24のため未定。
	② A	目標達成としたが、今後も生徒が意欲的に学び、進路実現するよう取り組みを継続していく。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・（市民病院勤務）職場でも学校でも目標を持って入ってくる子は強いが、実態は様々な子たちがいる。 ・今後も臨地実習を踏まえ、現場から大いに学び、看護職としての技能や資質を身に付けていただきたい。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・IGPの目標達成と新カリキュラムを意識した授業の工夫や効果的な授業方法の検討ならびに評価方法の検討の継続。 ・臨床判断能力育成のための各分野（基礎・成人・老年・母性・小児・精神・統合・在宅）でのシミュレーション教育の充実、演習の見直しとICT活用の効果的学習方法の検討の継続。 	